

## 6月14日 全校朝会でのお話

梅雨に入りました。

晴天率が日本で1番と言われる、晴れた日の多いここ熊谷でも、毎日曇りや雨の日が続き、気分も晴れない感じです。

外遊びが大好きな皆さんですから、外で遊べないのも大変に残念な気持ちがすることでしょう。

私たちの祖先は古くから、田畑で米や野菜を作り、それを食べて命を繋いできました。今、農業に携わっている人が少なくなり、日本は多くの食べ物を他の国に頼らざるを得なくなっている状態ですから、実感が湧きにくいかも知れませんが、雨が降らないとお米や野菜は育たず食べるものが少なくなり、大変なことになります。

雨は私たちの命を繋ぐ、まさしく「恵みの雨」です。

さて、日本には春夏秋冬と4つの季節「四季」があり、豊かな自然の変化があります。雨も、季節ごとに見せる姿がそれぞれで、昔の人はその一つ一つに名前を付けてきました。なんと400以上も呼び方があるそうです。

例えば、桜の花が咲いた頃に降る雨、「花散らしの雨」

そして今頃は、この頃に咲く「卯の花＝うつぎ」という花を落としてしまう、だめにしてしまうほど長い雨の降る季節になったという意味で「卯の花腐(くた)し」。

愚図ついた天気が続く頃、七夕の日当日の雨は「催涙雨(さいるいう)」。  
これは、織姫と彦星が別れを悲しむ涙雨を意味しています。

梅雨の終わりころに激しく降る雨は、「送り梅雨」

梅雨が終わったと思ったのに、まだすっきりしない天気が続くのが「戻り梅雨」

そして梅雨が明け、夏の雨の名前は草木をつややかに見せるのは「青葉雨」

まだまだたくさんあります。とても風情のある言葉たちです。

生活の不自由さの視点で雨降りを嫌うばかりでなく、こうしてそれぞれの雨に名前を付けたり、その違いを感じたりして、楽しみながら雨降りと付き合っていくのもよいものです。

まだまだ雨の日が続きます。

外に出て体を思いきり動かして遊べない中、それでも楽しく安全に教室で過ごせる方法を皆さんがそれぞれ考えてみるとよいと思います。(815文字 2分43秒)